

『辜蘇歷程』における文化の翻訳について

李 云

The Study on a Translation of *Robinson Crusoe* under the Title of *Gusulicheng*

LI Yun

Abstract

The purpose of this paper is to clarify the cultural interactions in East Asia by focusing on one translation of *Robinson Crusoe*, which was published under the title of *Gusulicheng* (辜蘇歷程). The translation was a Chinese dialect Cantonese interpretation. It was published in 1902 in Guangdong, and translated by an English missionary with the Chinese name of Yingweilin (英爲霖). This is the first time that *Robinson Crusoe*'s story has been rendered in Cantonese. For people living in the Canton area at the time, aside from those who had some exposure to foreign languages, this was probably the first time for them to learn about *Robinson Crusoe*. Prior to 1902 there had been no Chinese translations made of *Robinson Crusoe*. This paper shall focus on the cultural interactions present in the translation, and explore reasons behind the changes made by the translator.

Keywords : 文化翻訳、宣教師、広東方言、ロビンソンクルーソー

はじめに

Robinson Crusoe という小説が初めて中国に登場するのは1902年のことである。この年に、二つバージョンの中国語訳本が出版された。一つは上海開明書店から出版された錢唐跛少年が訳した『絶島漂流記』である。もう一つは本論の研究対象となる『辜蘇歷程』である。『辜蘇歷程』の出版社「真寶堂書局」は「羊城」にあり、つまり中国語方言の一つ粵語が使われている広東で刊行された。中国語方言の粵語は『辜蘇歷程』の書き言葉で、当時広東地域で生活していた人々の日常会話でよく使われていた言葉と同じだと考えられる。

『辜蘇歷程』の表紙にあるように、訳者はイギリス人宣教師、中国語名は「英爲霖」である。筆者の調査によって、「英爲霖」は William Bridie (1855-1911) であることがわかった。¹⁾ 英爲霖は1882年に中国に来て、メソジストの宣教師として、広東の仏山という町で活動していた。『辜蘇歷程』の序言によれば、

「辜蘇歷程一書、乃英國先儒名地科所作、平生緒論甚富、遐邇知名、計其書籍約有二百餘種、人皆以先得親爲快、然究不若愛此書者之尤眾且廣也、蓋是書一出、屢印屢罄、士民老少、羣爭購之、迄今垂二百年、暢行諸國、開卷批閱、無不悅目賞心、茲將原文、譯就羊城土話、雖未盡得其詳細、而大旨皆有以顯明、聊備婦孺一觀、了然於目、亦能了然於心、覺人生所閱歷、斯爲最奇而最險、實無窮趣味、樂在其中矣、爰筆數詞、敘於簡端、幸毋鄙俚見棄、竊厚望焉、是爲序」²⁾ (日本語訳：『辜蘇歷程』は、「地科」というイギリス人作家によって書かれたものである。彼の作品は量も多くて、よく知られている。その作品はおおよそ二百余りの種類がある。彼の作品を早く手に入れて読むことが流行となった。この本は出版されるやすぐ大きな人気を呼んだ。増刷してもすぐに売り切れになってしまう状況であった。多くの人がそれを買い求めていた。最初に出版されてから既に二百年になるが、たくさんの国で愛読された。多くの人が彼の書を楽しんだ。広州方言で翻訳された訳文は細部はともかくとして物語の筋をよく伝えている。女性や子供にもわかるような易しい文体で書かれ、様々な人生の経験、奇異な出来事や厳しい苦難も描かれ、興味津々、楽しむことのできる物語である。方言で書かれても決して雑にはなっていない。以上を序とする。)

序言では、原書の基本的な状況を紹介した上で、世界的人気を得た理由を詳しく説明している。原書の価値を最初に紹介し、それから、訳文の価値をスムーズに読者に認識してもらえる

1) 筆者の拙論で、訳者「英國教士英爲霖」は William Bridie であることを明らかにした。李云, 「*Robinson Crusoe* の訳本研究 — 以牛山良助版和英爲霖版为中心」, 『東西学術研究所紀要』, 第五十三輯, 2020年4月。
2) 英爲霖訳, 『辜蘇歷程』(真寶堂書局, 光緒二十八年)(1902年), 序。(以下は「英爲霖訳」と略す。)

ようにしている。注意すべきは、「雖未盡得其詳細、而大旨皆有以顯明」というところである。ここでは訳者が原書³⁾のどの部分を省略したのか、どんな大旨を強調したのかを明らかにしたい。さらに、訳者によって加えられたものを明らかにした上で、文化的翻訳の視点からその理由も分析したい。

一 「羊城土話」で翻訳された理由

訳文に使われた言葉は、当時中国の正統的な書き言葉「文言」ではなく、「羊城土話」という粵語である。その理由は、序言に「聊備婦孺一觀、了然於目、亦能了然於心」とあるように、女性と子供にも読んでもらえるように、そして内容がよく理解できるように、方言で訳したわけである。本を読むことは本来読書人に求められる能力だが、序文では、女性と子供にも、本が読める能力と、そして理解できる能力が求められている。その理由は英為霖が当時広東で活動していたことにあると考えられる。筆者の調査では、英為霖夫婦二人は中国の広東にいる間に、当地で教会女子寄宿学校の設立を支援したことがある。そして、英為霖の妻はその寄宿学校の教育活動に従事した記録も残っている。⁴⁾ そこから考えると、女子に対する教育がすでに行なわれていたこの地域では、『辜蘇歷程』は教会学校内において、一種の読み物として扱われたと考えられる。

英為霖版は物語の冒頭より、読者に商人家庭の生活様式の雰囲気を感じさせる。例えば、冒頭では主人公の父親は一年中商業を営んで、財産をつくった。母親の家族も地元の富裕層である。彼らは懸命に働いて、公平な業務を行って、家族に良い家を作ったり、美味しい食物を提供したり、綺麗な服を買ってあげたり、子女に技能教育に受けさせたりした。訳文は広東語で書かれたため、文法から発音まで、すべてマンダリンとは異なる。この点により、中国版の読者は広東地域出身の人々だと考えられる。しかし、なぜ小説の冒頭で商人の生活様式を特別に書き記したのであろう。これは、広東文化特に佛山文化が訳文の成立に重要な影響を及ぼしたと考えられる。英為霖版訳者の経歴についての調査により、訳者は1882年中国に来て、直ちに佛山で働き、1889年に広州に移住したことが判明している。訳者が翻訳の作業をしたのは広東佛山に住んでいたときである。訳者は教会に認定された教育担当の宣教師である。訳者の妻も中国武昌区ウェスリアンメソジスト婦女教会で三年間教育分野の活動に従事していた。1892年夫

3) 筆者の研究結果によって、『辜蘇歷程』は1864年に刊行された *THE LIFE AND ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE. BY DANIEL DE FOE. WITH A PORTRAIT; AND ONE HUNDRED ILLUSTRATIONS BY J. D. WATSON, ENGRAVRED BY THE BROTHERS DALZIEL.* (以下は「WATSON版」と略す。)を底本に翻訳されたものである。参照：李云, 「Robinson Crusoe 的译本研究——以牛山良助版和英為霖版为中心」, 東西学術研究所紀要, 第五十三輯, 2020年4月。

4) <http://archives.soas.ac.uk/CalmView/Record.aspx?src=CalmView.Catalog&id=MMS%2f17%2f02%2f09%2f06>

婦はイギリスで休暇を過ごしていたが、1893年夏訳者は広州の神学院の業務を担うよう指令されて、中国に戻った。1888～1889年休暇中イギリスでいた時期を除いて、訳者と妻はずっと広州で住んでいて、女子寄宿学校の設立も手伝った。訳者の妻は1905年スコットランドに戻るまでずっと婦女を助けて、教育を受けさせたり、聖經を勉強させたりする活動に従事していた。1903年訳者は香港に移住した。そこで、海軍牧師を務める傍ら教会会衆の拡大を進めた。しかし、1905年スコットランドに戻った後に、教会にランカシャーのパディハムに派遣された。1906年より1911年10月9日逝去するまで訳者はソールズベリープレーンキャンプで牧師を務めていた。

それでは、訳者が生活し活動していた広東佛山一帯に住んでいる人々はどのような文化的な特徴を持っていたのであろうか。佛山は広東に属し、嶺南文化に影響されている地域である。広東は嶺南の重要な組成部分である。嶺南文化の精神がここで形成され発展していった。嶺南文化は中国文化の中で地方文化の一つである。嶺南文化が地域的な独自の特徴を形成した重要な理由の一つは、中原内陸と異なる自然的・地理的な条件である。地理的に見ると、広東は山と海に面していて、山と海の間で山地、丘陵と平原が交錯していて、原始時代より、狩猟と耕作に適した地域である。内陸部の農業文化もここで発展していた。広東は4314キロ以上の海岸線、多数の島々、岬と砂丘を持っている。従って、文化の交渉と融合が嶺南文化の発展に前提と基盤を提供し、嶺南文化に独自な特徴を際立たせた。嶺南地域における領土の歴史的な進化についての調査は、社会経済、民族移動、人文習俗との融合と関係している。農業と手工業の発展により、南海郡治番禺は漢代では既に中国国内有数の商業町となっていた。宋代では、珠江三角洲の農業開拓が加速すると同時に、水利建設も重視された。明代中期以降では、換金作物を中心とした商業的な農業生産が急速に発展したことにより、農産物や副産物の加工産業の繁栄が促進された。嶺南地域の手工業を見ると、佛山の製鉄産業、石湾の陶磁器産業、甘蔗産業区の製糖産業などでは、工場主と雇用労働者という鮮明な身分が生まれてきている。嶺南文化は、基本的に地方経済の開発と交流を基盤に、政治上では中原地域と融合しながら、自分自身の文化を徐々に発展させてきた。社会開発の観点から見ると、嶺南は中原地域と比べれば、比較的に遅れているが、独自文化的な特徴を保持している⁵⁾。

そういう文化的環境の影響を受けたため、珠江三角洲奥地にあり、香港とマカオに隣接している佛山も独自の文化的性格を形成してきた。研究者羅長斌は「從佛山早期天主教看佛山人的價值觀⁶⁾」という論文では、佛山の中で出世した霍元甲、黃飛鴻、梁贊、葉問などの武術泰斗は多数存在したが、文化教育家の人数は極めて少ないと指摘した。特に近マッテオリッチが肇慶で布教した際に、商業に熱中する佛山では武術も推賞されていたため、カトリック教会は布教

5) 参考：張磊等，《嶺南文化志》（上海人民出版社，1998年），1-16頁。

6) 羅長斌，《從佛山早期天主教看佛山人的價值觀》，延安职业技术学院学报（第27卷第6期，2013年12月），134-139頁。

拡大の機を逃してしまった。『1901-1920年中国基督教調査資料』では、佛山の信教者についての資料は極僅かである。当時の佛山での信教者の数は極めて少なかったことが分かる。羅長斌は信者が少ない理由の一つが佛山の人々が商売と武道に熱中したため宗教には関心が向かないからであると分析している。佛山人の商業文化と武術文化は、豊かに発展するが、満ち足りて穏健で慎重な精神を培ってきた。

英為霖版をもう一度見てみると、読者があまり宗教に興味がなく、商業に熱中しているのが現実であるなら、英為霖版の冒頭で特別に書かれた商業的な雰囲気理解できる。佛山の人々にとって、英為霖版の物語は身近に感じさせられた。これにより、訳文が人々に受け入れられやすくなった。そうすると、訳者の牧師身分と妻が従事した仕事を考慮すれば、訳文は宣教の役割も担っていたと考えられる。地元の人々に受け入れられる興味深い物語を通じて、教義の宣伝を促進することができる。訳文の中で、原著の教義に関する論争の部分は完全に削除され、残った教義もより明確で理解しやすく、読者を慰撫する。

また、『辜蘇歷程』においては、最初部分に主人公ロビンソンクルーソーの出生地を紹介する際に、「in the city of York」⁷⁾を「在英國約城出世」⁸⁾と訳したが、「英國」は原書にはなかった情報で、つまり訳者の手によって加えられたものである。同時代の *Robinson Crusoe* 中国語訳本で、「York」は「イギリス」にある町だという情報を明確に読者に伝えるのは珍しい。前文にも挙げた同時代の訳版『絶島漂流記』には「余於一千六百三十二年生於約克城」⁹⁾と書かれている。また『冒険小説 魯賓孫漂流記』には「我生於約克城」¹⁰⁾と訳されて、『魯濱孫飄流記』には「魯濱孫曰。余生於一千六百三十二年。約克城中」¹¹⁾と訳されている。以上、挙げた中国語訳版はほぼ『辜蘇歷程』と同時代のものだが、いずれも原書のままだに訳されている。しかし、一つの例外がある。日本語の小波版を重訳した『無人島大王』は「克祿蘇者。英吉利鬱科人」¹²⁾と訳されている。それは底本となった小波版が「英吉利のヨークと云ふ處に」¹³⁾と訳したからである。小波版は日本において、既に第12回目翻訳された。最初の日本語版である『漂荒紀事』¹⁴⁾にはこの町のことについて全然言及されなかったが、次の『魯敏遜漂行紀略』には割注の形で、

7) WATSON 版, 1 頁。

8) 英為霖訳, 1 頁左。

9) 錢唐跛少年訳, 『絶島漂流記』(上海開明書店, 光緒二十八年)(1902年), 1 頁。

10) 訳者不記, 『冒険小説 魯賓孫漂流記』, 雑誌: 大陸報, 第 1 期 (1902年12月), 1 頁。

11) 閩縣林紓・長樂曾宗鞏訳, 『魯濱孫飄流記』(上海商務印書館, 光緒三十一年)(1905年), 1 頁。

12) 小波節譯・紅絨重譯, 『無人島大王』(民呼日報圖畫, 己酉年四月二十六日)(1909年)。参照: 中國國民黨中央委員會黨史史料編纂委員會, 『民呼日報(精裝二冊)』(中央文物供應社, 中華民國五十八年六月一日)(1969年), 214頁。

13) 日本大江小波編・日本渡部審也畫, 『世界お伽噺第五編無人島大王』(博文館, 明治三十二年五月十五日)(1899年), 1 頁。

14) 黒田麴廬訳, 『漂荒紀事』(嘉永三年頃)(1850年), 1 頁。

<http://kotenseki.nijl.ac.jp/iif/mirador/?m=http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100245490/manifest&ln=ja>

「ロビンソンクリューサー ヨルク 英吉利国¹⁵⁾」と訳されて、この町の基本情報を読者に提供している。この後に出版された日本語訳版の中に、「York」が「英国」にある町だという情報が伝えられている。例えば、「英國貴族ノ一子ナル『ロビンソン、狗見僧』ト云ヘル人アリ千六百三十二年『イヨルク』町ニ生タリ¹⁶⁾」や、「いざりすよをくしう英國約克州¹⁷⁾」や、「英吉利國エイコクヨーク府¹⁸⁾」や、「英國エイコクヨークの町¹⁹⁾」などの形でその情報が伝えられている。以上、挙げた例から見れば、『辜蘇歷程』の訳者英爲霖はほとんど同時代の日本人訳者と同じ方法で翻訳活動をしていた。つまり、読者にとって分かりづらいことについて、情報などを補って、より分かりやすいように読者に提供することである。

多数の資料を調査した結果、最終的にもとの挿図が John Dawson Watson (1832-1892) の作品だと判明した²⁰⁾。Watson は19世紀60年代に最も人気のある挿絵画家であり、イギリスのマンチェスタースクールオブデザイン、キングエドワードVIグラマースクールで教育を受けた。彼の作品は様々なジャーナルに掲載された。その中での優れた作品も *Good words* (1861-63) と *London Society* (1862-67) に掲載された。Watson はまた多数の優秀な文学作品の挿図を作成した。『天路歷程』(*The Pilgrim's Progress*, 1861) と *Robinson Crusoe* (1864) が含まれている。これらは主に Dalziel 二兄弟と George Routledge などの出版業者の協力により出版された。Watson は才能があり、手数料をよく稼げる画家である。しかし、彼はいつも自分自身に満足していなかった。彼は才能に恵まれ過ぎていたせいか、作品の作成の過程で行き詰まりや困難にほとんど遭遇しなかった。そのためかえって自分の作品の価値が自分では認識できなかった。自分は簡単に作品を仕上げるが、自分の作品には興行きがないと考えていた。しかし、彼の自己認識は事実と一致していない。実際には、彼の作品は絶妙で緻密な構成と詩的な表現を持っている²¹⁾。研究者デイヴィッド・ブルーエットは、Watson の絵画がリアルな描写に基づいて、船、衣服、風景を描いたうえで「感傷的」な「性格描写」を伝えていると評価した²²⁾。

『辜蘇歷程』の挿絵に関してもう一つ注目すべき点は、挿絵の順序が変更されていることであ

15) 横山保三由清訳、『魯敏遜漂流行紀略』(瓊華書屋、安政四年(1857年)、1頁。

16) 山田正隆訳、『回世美談』(巖、堂、明治十一年(1878年)、1頁。

17) 横須賀橘園訳、『九死一生 魯敏遜物語』、雑誌：驥尾園子、第二十七号、明治12年(1879年)4月30日、四一九頁。川戸道昭・榊原貴教編、『明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》13十八世紀イギリス文学集』(大空車、2000年4月25日)、12頁。

18) 井上勤訳、『魯敏遜漂流記』(長尾景弼、明治十六年十月(1883年)、1頁。

19) 牛山良助訳、『新譯魯敏遜漂流記』(和田篤太郎、明治二十年三月(1887年)、1頁。

20) 筆者の拙論で、『辜蘇歷程』における挿絵は John Dawson Watson (1832~1892) の作品であることを明らかにした。李云、*The Study of Illustrations of Robinson Crusoe in Early Modern East Asia*、『亚洲与世界(第2輯)』、社会科学文献出版社、2019年11月、35頁。

21) 参考: Simon Cooke (Ph.D., Assistant Editor for Book Illustration and Design), *Watson as an illustrator, The Victorian Web, Visual Arts, Illustration, John Dawson Watson* 栏目。http://www.victorianweb.org/art/illustration/watson/cooke.html

22) 参考: デイヴィッド・ブルーエット著、ダニエル・デフォー研究会訳、『ロビンソン・クルーソー』挿絵物語—近代西洋の二百年(1719-1920)—(関西大学出版部、1998年)、106-107頁。

る。たとえば、1864年に出版された英語版（Watsonの挿絵が付属しているバージョン、以下「Watson版」と省略）の31番目（図1）と32番目（図2）の挿絵は、『辜蘇歷程』では逆順となっているが、図の下に付く説明文は元通りに変更されていない。Watson版の32番目は『辜蘇歷程』の10番目（図3）となって、元々「思い込んでいる様子」が表現された挿絵は一転「病気で寝たきりになった様子」に変わっている。それに対して、Watson版の31番目は『辜蘇歷程』の11番目（図4）となって、「病気にかかった」挿絵は「思い込んでいる様子」の表現に変わった。つまり、物語のプロットが変更されずに、表現する図像が変更されている。なぜこれらの変更が行われたのか？

その理由は、イギリスと中国の文化の違いによるものと考えられる。中国人は病気の際は座っていないで寝ている。「一卧不起」や「卧床不起」など諺があるように、病気になったら寝るというのが一般認識として中国人は持っている。しかし、病気にかかった人が座っているのは不自然で、無理しているように見える。翻訳者は『辜蘇歷程』を中国の読者に合うように適当



図1 1864 Watson版の31番目挿絵「CRUSOE BEGINS TO BE ILL」



図2 1864 Watson版の32番目挿絵「CRUSOE IS FILLED WITH REMORSE FOR HIS PAST LIFE」



図3 『辜蘇歷程』の10番目挿絵「得發冷病愁苦臥床」



図4 『辜蘇歷程』の11番目挿絵「寂坐沉思心懷憂悶」



図5 1864 Watson版の50番目挿
絵「Crusoe buried his dog」



図6 1864 Watson版の51番目挿絵「Crusoe
feels contented with his lot」



図7 『辜蘇歷程』の20番目挿絵「與猫鳥狗
大家安樂」

な変更をしたので、広東地域の中国人にとっては物語を容易に理解することができた。別の例は、主人公が飼っている犬の死亡である。Watson版では、50番目の挿絵「Crusoe buried his dog」(図5)の後で、51番目の挿絵「Crusoe feels contented with his lot」(図6)となる。『辜蘇歷程』では、犬の死亡は文章で描かれていない。しかも、51番目の挿絵では、タイトルが「與猫鳥狗大家安樂」(図7)となっていて、その意味は「猫、オウム、犬と幸せな暮らしをすること」である。翻訳者は、中国人の感性を乱さないように犬の死をわざと省略している。家族全員が揃って一緒に暮らすのが幸せの標準であり、「安樂」というイメージである。この挿絵はそのままに使われているが、解説があるので、犬の不在が合理的になる。「幸せな暮らし」が合理的に表現できるようになる。

二 父親の権威

原書では、主人公の名前をめぐって、その由来が詳しく語られている。主人公の父親は外国からヨークに来て、商売で富を得た。父親の妻、つまり主人公の母親は当地の名門名家の子である。主人公の苗字は父親の苗字「Kreutznaer」を受継いで、母親の苗字「Robinson」を名前にした。だが、父親の苗字が発音しにくいいため、最後に「Crusoe」に変更した。しかし、その経緯は『辜蘇歷程』において、書き換えられた。

「父親名叫辜蘇、本係別國嘅人、喺英國造生意、因此居住好耐、後來取英國女子盧邊信氏爲妻、所以稱我名為辜蘇」²³⁾（日本語訳：父親はクルーソーという名前で、本来は別の国の人で、イギリスに来て商売をした。長い間イギリスに住んでいた。その後、イギリス人女性ロビンソン氏を妻にした。だから、私の名前はクルーソーと呼ばれた。）

本文のプロットでは、すなわち母親の苗字を名前にしたことが省略されている。中国の伝統的な家族制度では、父親は法律上常に優位な位置にある。家父長制の特徴は家父長の全能的な無制限的な支配と、無条件的な献身恭順にあると言われる。²⁴⁾ 子供が父親の苗字を受け継ぐのが正統なやり方なので、中国の伝統文化に従うため、余計な不信感を最低限に減らす方法を選んだわけである。訳者英爲霖は中国の文化を配慮したものと考えられる。

また、小説における主人公の母親の立場を弱くするのも、この家父長制の影響ではないかと考えられる。例えば、主人公がどうしても航海に出たくて、母親の口添えで父親の許しを得ようと、母親が機嫌のよい時に本音を打ち明けて頼むと、母親ははっきり断った。父親を口説くことはもとより、伝言さえもしないと強く言った。原書は「that for her part, she would not have so much hand in my destruction; and I should never have it to say that my mother was willing when my father was not」²⁵⁾（日本語訳：母にしても、私の身の破滅になることに力をかすわけにはいかなかったし、父が反対しているのに母に無理に賛成してもらうことも無理だとわかった）と書かれている。よく考えてみれば、原書の母親は「責任感」という意識を持っていて、しかも、父親が持っている権力と同じぐらい。母親は決定権を持っているので、以上のような発言ができるわけである。

『辜蘇歷程』では、「母親聽聞我嘅話、輓起雙眼、睇住我話、你想我搵你出門嘅事、勸你父親

23) 英爲霖訳、1頁左。

24) 仁井田陞、「中国の家父長権力の構造」、『法社会学』1953(4)、34頁。

25) WATSON版、6頁。

咩、係枉費唇舌呎、你若係出門、必定有唔好嘅事做出」²⁶⁾ (日本語訳：母親は私の話を聞いて、怒りで目を大きくして、私に向かってこう話した「あなたが家を出ることを、私から父親に伝えて、さらに父親を口説いて欲しいというのですか。それは無駄ですよ。あなたが家を出たら、必ず不幸な日に遭うから。)])

『辜蘇歷程』の母親は原書の母親と同じで主人公からの願いを断ったが、次の行動に差が出る。

「我就兩三口賬求佢、究竟母親有愛仔嘅心、應承肯話過父親知、但唔肯勸佢」²⁷⁾ (日本語訳：そこで、私は二、三回母親にお願いした。母親はやはり子供を可愛いと思っているから、父親に伝えますが、口説かないと言った。)

『辜蘇歷程』の母親は父親と子供の間の架け橋の役割を引き受けた。決定する権力などを持っていないわけである。父親の権威はここでよく表現できたと考えられる。

さらに、両版の主人公は父親の拒否に対して、全然違った行動をとる。原書には、主人公はその後、何回も父親のところに行って、自分の考え方を父親に告白して、外に出る機会を得るために一生懸命頑張っていたが、『辜蘇歷程』の主人公は断れられてから、ずっとひきこもりで、憂鬱な毎日を送るようになってしまった。

「誰知日子過得好快、不覺又上下一年咯、因為不能出外、致到極之閉翳」²⁸⁾ (日本語訳：時間の経つのが早い、知らない間にもう既に一年になった。外に出られないため、極めて憂鬱な状態になってしまった。)

『辜蘇歷程』の主人公は父親の権威に負けて、自己主張を失って、父親の言う通りに従った。読者は家長長制の環境で生育しているので、主人公と同じ経験を持っていると考えられる。しかも、それが正しい道だと認識されていた。

父親の権威が尊重されていることと、母親がいつも子供を可愛がっていることは、中国での一般的な家族の形である。父親は最高の決定権を持っているから、一度禁じられたことは二度と申し出できないことが普通の親子関係だと認識されている。『辜蘇歷程』は中国の伝統文化、特に家庭文化を配慮した上で、訳文を仕上げたと考えられる。

26) 英為霖訳、2頁右-3頁左。

27) 英為霖訳、3頁左。

28) 英為霖訳、3頁左。

三 商売人の日常

前述したように、訳者英爲霖は広東の仏山市のあたりで活動していた。この地域は古くから商業が盛んであった。²⁹⁾『辜蘇歷程』の訳文にも、商人に特有な価値観や、生活習慣が本文の中に取り入れられたと考えられる。

例えば、家に居て、親戚や、友達とよく会うことができる。これは原書になかったことだが、訳文に出てくる。

「仔呀、你想出外有乜益呢、喺屋趾有事可以照應、若係出外、就容易學壞、因噉作惡犯罪嘅、亦唔少、你喺屋趾守分造事、亦可以發財而且親戚朋友、大眾聚埋一處極之快活」³⁰⁾（日本語訳：わが子よ。今家を出、世間に金を稼ぎに行くなんて何の益もない。家で暮らして何か問題があったら、すぐ手伝ってあげるよ。世間に出ると、悪ずれしやすい。多くの人はそのようにしてずる賢くなったのだ。家で本分を守りながら事業を起こしても儲けられるよ。しかも、親戚や友達などはみんな側にいるから、何と幸せなことか。）

この部分は、訳者が仏山で生活していた経験から、このプロットを補ったのではないかと考えられる。読者はこの部分を読んで、すぐに状況を頭の中に浮かべ、父親の言う通りに、家に居たら、確かにそういう幸せな生活が過ごせるのという思いをかきたてられる。これで、『辜蘇歷程』が読者の生活との距離が短くなり、その魅力がさらに一層強くなると考えられる。主人公がまさに身近に存在する人のように見えるし、彼の物語に深い興味をいだくようになると考えられる。

そして、訳者は原書にある中産階級の堅苦しい論説を簡略化して、「好人」と「唔好人」のように分けて、「幸せ」を商人の考え方で解説している。

「你若係必要出外、實在唔聽父親話咯、唔論喺邊處地方、有好人、亦有唔好人、若話出外、怕未必盡係好人、人係大多錢財、佢嘅憂慮是必多、我家中如今得飽煖、亦可以過得去、你喺屋趾好食好着、冇憂冇慮、重話唔安樂咩」³¹⁾（日本語訳：父の意見をどうしても受け入れず、本当に世間に出たいなら、どこに行っても良い人も悪い人もいるので、出会った人が必ずしも良い人とは限らない。お金を持っていると、それと同じ程度の悩みを持つはずだ。

29) 筆者の拙論で、仏山市の商売伝統について検討した。参照：李云、「Robinson Crusoe 的译本研究——以牛山良助版和英爲霖版为中心」, 東西学術研究所紀要, 第五十三輯, 2020年4月。

30) 英爲霖訳, 1頁右-2頁左。

31) 英爲霖訳, 2頁左。

我が家は今衣食に事欠かない家庭だから、君はのんきに生きられる。それは幸せだと思わないの?)

堅苦しい高説ではなく、当地の人が慣れ親しんだ考え方や習慣から、分かりやすい方法で説かれている。『辜蘇歷程』では商人の考えや習慣から原書を書き換えた部分を例として挙げてみる。

「因爲父親産業甚多、故此我年紀將近二十歲、都唔肯學事業、父親想我學造狀師、望將來得尊貴嘅職」³²⁾ (日本語訳：父親が数多くの事業をしていて、私はそろそろ二十歳になるが、仕事などについてはまだ勉強したくない。父親の意見では弁護士の職業のために勉強すれば、将来は尊敬される仕事につくことができる。)

原書では、「designed me for the law」³³⁾ だが、ここで、「狀師」という具体的な職業に絞られて、次の部分にも同じように書かれて、「父親叫我學狀師、唔合我心」³⁴⁾ (日本語訳：父親は私に弁護士になるための勉強をさせようとしたが、私の本意と合わない。)[「狀師」をそのまま用いて、原文の「that I was now eighteen years old, which was too late to go apprentice to a trade, or clerk to an attorney」³⁵⁾ を書き換えた。これで前文と後文がつながり、読者にとって理解しやすくなった。

さらに、広東語を使って生活していた当地の商人にとって、商売繁昌のため、言葉の重要性もよく分かっている。そこで、『辜蘇歷程』でも言葉の重要性が強調されている。例えば、主人公がブラジルでプランテーションを経営するときに、ほかの園主と相談して、奴隷の人身売買を計画した。出資に関しては、原書は「and they offered me that I should have my equal share of the Negroes, without providing any part of the stock」³⁶⁾ で終わっているが、訳文では、

「如今我哋各人出本錢同埋買一隻船、你有分、但係唔使出錢、獨係出力嘍、賺倒就大眾同分、因爲你已經做過幾口賬、熟識個處土話、生意必定興旺、若係你算呢的事唔好做、就我哋獨做一口賬、得倒利息、就罷手唔做、因爲我哋亦知呢的係犯法、故此唔敢多做、慌怕危險、我聽聞呢的說話、心極歡喜、買賣嘅事、冇好過呢的咯、因唔使出本錢、亦得倒有股分」³⁷⁾ (日本語訳：今私たちは各自で資金を出し合って一艘の船を購入する。君も持ち分を持っているが、お金を出す必要はなく、ただ力を出してくれたらいい。収益があったら、

32) 英爲霖訳、1頁左-1頁右。

33) WATSON版、1頁。

34) 英爲霖訳、2頁右。

35) WATSON版、5頁。

36) WATSON版、38頁。

37) 英爲霖訳、11頁右。

みんなでその利潤を分けあう。なぜなら、君は経験を持っているし、当地の言語にも通じている。私たちの仲間入りをしたら、きっと商売が繁盛するだろう。もし君がこのことがうまくいかないとしたら、一回だけで終わってもいい。利益が出たら、すぐやめてもかまわない。私もこれが違法だとわかっているのだから、心配もあり、ずっとやり続けたくない。しかし、彼らの話を聞いて、嬉しくなった。こんなうまい商売は他にないだろう。お金を出さずに利益を得ることができるというのだから。）

訳者によって、広東の読者に親しみやすい情報が加えられ、また、言葉が商売繁盛につながっていくことを意識している。読者との関係を考えると、合理的な訳となっている。同じように言葉の重要性が強調されている箇所は他にもある。例えば、

「個國嘅說話、已經曉講、時常好多朋友嚟坐、故此人唔當我係下等嘅人、冇學問嘅」³⁸⁾（日本語訳：この国の言葉を上手にしゃべっているのだから、時々現地で知り合いになった人々がうちへやってきて暇つぶしをする。だから、現地の人は私を見下すようなことはない。）

この部分は訳者によって補われた部分であるが、ストーリー全体から見れば、極自然な流れの一部に見える。外国人がその土地の言葉が話せない限り、土地の人々に受け入れられないという常識があるだろう。訳者自身も、話がうまくできない間は、教育を受けていないものだと思われ、身分の低い者だと見做されただろう。言葉の重要性もここで強調されていることがわかる。

商売が盛んなこの町で、訳文の中には、所々で商人にとって親しい要素が加えられて、読む人は普段の生活にもよくみられよく体験することが多いので、身近な物語と思わせられる。そして、より興味深く読み続けることになると考えられる。

四 訳文から見た西洋事情

原書は英語で書かれているので、欧米人にとっては当たり前でよく知られていることが書かれてあるのは当然のことである。しかし、訳文を読む読者に対して、欧米文化に特有なものや、欧米では一般的な常識であることを訳者はどういうふうに通訳するのか、ここで検討したい。

まずは、度量について、長さや、深さ、そして重さをどのように訳したのかに注目したい。「到半夜、有人落去船底睇下、見已經入水有四尺深」³⁹⁾ ここで挙げたのは深さ「四尺」は1.3333

38) 英為霖訳, 10頁右。

39) 英為霖訳, 3頁右。

メートルで、原書は「four feet」⁴⁰⁾、換算してみれば、1.2192メートルで、ほぼ同じである。訳者は読者に慣れ親しまれている深さの度量単位を使っていることがわかる。

重さに関しては、以下のようである。「我帶的蠟有半担」⁴¹⁾、つまり25キログラムで、原書は「half a hundred weight」⁴²⁾、およそ25.4キログラムである。さらに、「我上船、見個隻船好大、可能裝貨二萬担左右」⁴³⁾、「二萬担」は1000トンで、原書は「one hundred and twenty tons burden」、120トンで、差が大きいことがわかる。ここは訳者の換算間違いでなければ、わざと大きな船として描いたのではないかと考えられる。

長さについて言えば、「出到約嘆三里路、落輓拋錨嚟擱魚」⁴⁴⁾、「三里路」は1.5キロメートルで、「a mile」⁴⁵⁾は1.6093キロメートルで、ほぼ同じ長さである。しかし、訳文に「回頭睇吓隻大船、相隔約有五里咁遠」⁴⁶⁾があるが、原書では詳しい長さの表現ではない。「I cast my eyes to the stranded vessel, when, the breach and froth of the sea being so big, I could hardly see it, it lay so far off」⁴⁷⁾とあるが、「五里」は2.5キロメートルで、一般人が歩いて、30分ぐらいかかる長さである。ここで、原書に提示していないことを具体的な長さで表示するのは、読者が想像しやすいような要素を提供していると考えられる。その後、訳文に出現した長さは、大体原書と同じぐらいの長さで表示されている。例えば、「馴醒個時、已經天光咯、熱頭都出咯、擘開眼週圍睇吓、就見自己所坐個隻大船、已經被風打到昨晚抱石上岸個處、離呢處不過三里咁遠、心好歡喜、又見五六里之外、有大船所遺落三板一隻、口抗在岸上」⁴⁸⁾や、「故此週圍睇吓地方、見三里咁遠、有一個大山」⁴⁹⁾などがある。

次は、お金のことにに関してであるが、主にイギリスのポンドと中国の「銀兩」の換算について、筆者の調べでは、訳者は大体の数値で表しているが、ほぼ正確である。例えば、「趁呢個機會、就辦齊各貨、值銀三百兩」⁵⁰⁾という表現があるが、原書は「£40」⁵¹⁾で、さらに「到基尼將貨共土人交易、賺得二千兩銀」⁵²⁾とあるが、原書は「£300」⁵³⁾である。ここで訳者はトロイポンドを「兩」に換算したのではないかと考えられる。また、ポンドではない貨幣は、そのまま数

40) WATSON 版, 11頁。

41) 英爲霖訳, 6頁左。

42) WATSON 版, 22頁。

43) 英爲霖訳, 12頁左。

44) 英爲霖訳, 6頁右。

45) WATSON 版, 23頁。

46) 英爲霖訳, 14頁左。

47) WATSON 版, 45頁。

48) 英爲霖訳, 15頁左-15頁右。

49) 英爲霖訳, 18頁右。

50) 英爲霖訳, 4頁右。

51) WATSON 版, 17頁。

52) 英爲霖訳, 5頁左。

53) WATSON 版, 17頁。

値を使って、「兩」に換算した。例えば、「船主想买我隻艇嚟用、我見佢待我咁好、唔敢要幾多價錢、佢應承俾八十兩銀過我、佢又想買蘇理應承俾六十兩銀過我」⁵⁴⁾とあるが、原書は「eighty pieces of eight for it at Brazil」と「sixty pieces of eight more for my boy Xury」で表示している。「我上岸時、身上有二百幾兩銀」⁵⁵⁾と訳されているが、原書は「two hundred and twenty pieces of eight of all my cargo」である。どれもそのまま数値を使って、中国の貨幣に訳している。

以上挙げたものは、全て中国の単位に書き換えられている。西洋の単位はこの時代に、この地域では、まだ民衆の間でよく知られていないことがわかる。

時間に関しては、ほぼ欧米で使われている時間制を用いている。例えば「約莫半點鐘水大定」⁵⁶⁾とあるが、原書は「I stood in that manner near half an hour, in which time the rising of the water brought me a little more upon a level」⁵⁷⁾である。

また、『辜蘇歷程』ではポルトガルが「西洋」と訳されている。例えば「我認得個隻係西洋嘅船」⁵⁸⁾の「西洋嘅船」は「a Portuguese ship」⁵⁹⁾であり、「佢用西洋、西班牙、法國、三處嘅話嚟問我」⁶⁰⁾が「They asked me what I was, in Portuguese, and in Spanish, and in French」の訳文となり、「如今西洋船主第二水去歐洲爲我打理呢件事、佢船番嚟時、帶來耕園所使嘅器具、樣樣齊備、兼之有英國嘅貨物」⁶¹⁾の「西洋船主」は「the Portuguese captain」である。この時代はまだ「西洋」という言葉でポルトガルを指していることがわかる。

さらに、主人公の行為をより理解しやすくするため、原書より、詳しく説明している。

「就將藏火藥嘅牛角、掛在膊頭、手鎗收埋袋裏頭、担起一枝火鎗、一直行、搵嚟防避、因爲初到呢處、唔知到點樣、若遇着野人或野獸、有火器可以拒敵、而且至緊要嘅、重在有肉食、有火器就隨便打獵、可以得飽」⁶²⁾（日本語訳：火薬を牛角に入れて肩にかけて、銃を袋に入れて持って歩いている。なぜなら、初めて着いて、周辺の事情がわからないからだ。野人もしくは野獣に遭ったら、火器で防衛できるだけでなく、最も重要なことは、いつでも狩猟できて食肉を得ることができるからだ。）

54) 英爲霖訳, 9頁左-9頁右。

55) 英爲霖訳, 9頁右。

56) 英爲霖訳, 18頁左。

57) WATSON版, 54頁。

58) 英爲霖訳, 8頁右。

59) WATSON版, 32頁。

60) 英爲霖訳, 9頁左。

61) 英爲霖訳, 10頁左。

62) 英爲霖訳, 18頁右。

読者のことをよく考えて、誰でも優しく理解できるようにしたのではないかと考えられる。

主人公の名前はRobinson Crusoeである。苗字と名前の順序においては、東西には大きな違いがある。しかし、西洋文化にまだ親しみのない時代の人々にとっては、名前が前で、苗字が後ろにくるといふ決まりが自明のことではないと言える。例えば、本章で取り上げた訳本はその間違いを起こしている。

沈祖芬版の主人公の名前は「勞下生氏克魯沙」となる。「母勞下生氏英世家女也生三子遂籍約克因姓勞下生氏」⁶³⁾ここでは、主人公は母親の苗字を受け継いだ。明らかに、姓は「勞下生」であり、名は「克魯沙」である。高橋雄峰版は「母の家は此國に於て頗ぶる良家門に屬し、姓をロビンソンと稱せしかは、余も亦ロビンソン、クリウツアーとそ呼ばれたりき」⁶⁴⁾となる。これも誤訳だと考えられる。

ほかの翻訳版本も見てみよう。『漂荒紀事』には、「我祖父名魯敏孫云其名以氏我先考貴家胄本此邦人」とある。ここでは、「祖父」「先考」と父系が強調され、母に関する記述がまったく訳出されない。しかし、参照となる蘭訳版本には語り手の名のロビンソンは、母方の姓であり、また、母と父の姓をとってRobinson Kreutznarと呼ばれたのである。⁶⁵⁾そこで、訳者がわざと母系のことを軽視していると考えられる。

井上勤版本には「當國ノ伯爵ニシテ就中名家ト聞エタルロビンソン氏ノ女ヲ娶リテ配偶トナシ玉ヒケルガ即チ予ガ母ナリ此由縁ニ因テ予ガ名ヲロビンソンクロイツ子ヤトハ呼ビタリ然レド英國人ノ常トシテ訛リテクルーソートノミ呼ビケレハ終ニハ予モ自カラクルーソート稱スルコトトナレリ」⁶⁶⁾とある。

牛山良助版本には「魯敏遜と云へる家より妻を迎へたり是ぞ克爾騷の實母にして母方に従ひ魯敏遜の姓を名乗るをり氏は其の實名をクリユーツ子アーと呼びしが朋友誰彼の言ひ訛りて克爾騷と呼びたるを其の儘にして改ためず竟に本名とはせしをりと」⁶⁷⁾とある。

さらに、以上挙げられた版本の後に出版された版本も見てみよう。學窓餘談社版本は「母の親族をロビンソンと稱し、其地方の名族なりければ、我もその縁故にて、ロビンソン、クロイツナエルと呼ばれたり。」⁶⁸⁾「今は我一族は、人にクルソウとよばるゝ」⁶⁹⁾とある。

高橋五郎と加藤教栄の共訳版本には、「母の生家はロビンソンと云ふ土地での名家であった。

63) 錢唐跛少年訳、『絶島漂流記』、上海開明書店、光緒28(1902)年。

64) 高橋雄峰訳、『ロビンソンクルーソー絶島漂流記(上巻)』、博文館、明治27(1894)年3月、1頁。

65) 黒田麴虚訳、『漂荒紀事』(飛鳥井雅道 齋藤希史編『注釈漂荒紀事』、京都大学人文科学研究所、1996年、20頁。)

66) 井上勤訳、『魯敏孫漂流記』、長尾景弼、明治16(1883)年10月、1頁。

67) 牛山良助訳、『新譯魯敏遜漂流記』、和田篤太郎、明治20(1887)年3月、2頁。

68) 學窓餘談社訳、『奮闘美談ろびんそんくるそう』、春陽堂、明治42(1909)年4月、1-2頁。

69) 學窓餘談社訳、『奮闘美談ろびんそんくるそう』、春陽堂、明治42(1909)年4月、1-2頁。

余も亦其姓を冒してロビンソン、クリウツァーと呼んで居った」⁷⁰⁾とある。

しかし、東アジアにおける訳本では一つの例外がある。それは英国宣教師により翻訳された版本である。「父親名叫辜蘇、中略後來娶英國女子盧邊信氏爲妻、所以稱我名爲辜蘇」⁷¹⁾ 母親の苗字を主人公の名前にしたスポットが省略されて、直接に父親と同じ名前で受け継がれた。このやり方で、東西の姓名の習慣の違いに生じた誤解が避けられる。読者を混乱させないように工夫したことが確認できる。

五 宣教の意図

前文でも言及したように、訳者英爲霖はメソジスト宣教師であるため、『辜蘇歷程』は宣教のために訳したと考えられる。また、英爲霖と彼の妻は当地で教会女子寄宿学校の設立と教育に携わったことを明らかにしたが⁷²⁾、『辜蘇歷程』はこの寄宿学校の教育に使われたと考えられ、関連資料を確認し今後さらに検討したいと思う。

ここで、『辜蘇歷程』における宣教の意図について検討したい。

まずは、原書の省略部分について検討する。『辜蘇歷程』は主に無人島での生活を中心に展開していて、この島で主人公はキリスト教への信仰が強くなり、その後野蛮人「亜五」の宗教的帰化も物語の重要な部分となっている。そこで、全編の分量を配慮し、如何に主人公を早く無人島に行かせるのかがポイントである。訳者は原書のプロットを調整して、宣教の目的に合わせるように、訳文を仕上げた。

例えば、原書においての主人公が初めて航海に出た時、初日は船の揺れに慣れずひどく苦しくて、自分が両親の勧告を聞かずに勝手に航海に出たことを後悔している。さらに、二度と船に乗らないことを自ら神に誓った。しかし、体が少し回復した主人公は、二日目から、前日の悔いを全部忘れて、誓ったことさえもすっかり忘れてしまう。六日目から天候が悪くなり、船があまり進まなくなった。そして、八日目に嵐に遭難するという物語である。⁷³⁾ しかし、英爲霖は初日から二日目及び六日目のプロットを略して、主人公の複雑な心情も語らなかった。その代わりに、直接航海の八日目に起こる遭難から語り始めている。

「個日係一千六百五十一年、九月初一日略、開船之後、初七日口逆風、唔駛得船、就灣泊個處幾日、但覺風漸漸大、到第八日越發關係」⁷⁴⁾（日本語訳：それは1651年9月1日のことで

70) 高橋五郎・加藤教栄訳、『漂流物語ロビンソンクルーザー』、富田文陽堂、明治44(1911)年5月、1頁。

71) 英爲霖訳、『辜蘇歷程』(真寶堂書局、光緒二十八年)(1902年)、1頁左。

72) <http://archives.soas.ac.uk/CalmView/Record.aspx?src=CalmView.Catalog&id=MMS%2f17%2f02%2f09%2f06>

73) 参照：WATSON 版、7頁。

74) 英爲霖訳、3頁右。

あった。船が出港しての七日間は逆風だったので、あまり遠くまで航海できていなかった。何日間は同じところに泊まっていた。風がだんだん強くなって、八日目になると、さらに酷くなった。)

この部分について、訳者は明らかにプロットをシンプルにしている。『辜蘇歷程』の第一章が八日目の遭難から救われたことで終わる。第二章は主人公が神に感謝することから始まっている。一章の展開だけで主人公が無人島での生活を始める筋立てとなっている。次の例を見てみよう。

「個隻船被風吹在石上、個的水亂沖、兩隻三板已經沉曉一隻、眾人慌到了不得、剩下一隻、就即時落去、風仍然唔息、勉強開行、大眾話呢處若係海島、冇人住、就我哋一定唔得生咯」⁷⁵⁾ (日本語訳：この船は風にあおられ岩に打ち付けられた。逆巻く水流のため、二つの舢舨の一つが沈没し、残っている唯一の舢舨もすぐ沈みそうなので、みんな恐れおののいた。風もまだ治まっていないが、力を尽くして操舵し航行する。「先にあるのがもし無人島だったら、われわれはきっと生きのびることができないだろう」とみんなが言っている。)

ここでは、無人島で生き延びることの難しさが強調されている。「大眾話呢處若係海島、冇人住、就我哋一定唔得生咯」は本来原書になかったものであり、これがあるから、宗教の力が主人公を強くして生き延びさせるだけではなく、他の人をも助けて、一緒に生き延びることができた。また、次の例を見てみよう。

「再到船中擺空木箱、先將麪粉、麪飽、羊肉乾、大麥、米粉、各樣擠在箱處、絨繩吊落去」⁷⁶⁾ (日本語訳：もう一度船の中に入ると、木製の空箱に、小麦粉、パン、ラムジャーキー、大麦、米粉の入った袋が、縄で結んで吊り下げられていた。)

原書では「大麦」は想定外に、勝手に成長したものである。ここで明らかに提示するのは、物語のプロットを簡単にして、無人島で大麦を植えることの合理性をさらに根拠付けるものである。

『辜蘇歷程』は宗教性に満ちているというのは、物語の内容と語り方の両面で宗教性が表されているからである。例えば、本書では、主人公が無人島で落ち着いた頃に、萎れた自分を慰めるため、「I began to comfort myself as well as I could, and to set the good against the evil, that I might have something to distinguish my case from worse; and I stated very

75) 英為霖訳, 13頁右。

76) 英為霖訳, 16頁右。

impartially, like debtor and creditor」⁷⁷⁾（日本語訳：私は公平に、簿記でいう貸方と借方といった具合に、自分がめぐまれている有利な点と苦しんでいる不利な点とを次のように対照してみた）というやり方だが、『辜蘇歷程』では、問答の形でこの部分を再現している。

「做成問答嘅說話、問我今獨係呢處危險嘅地方、想離開呢處有生命去歸、怕唔得咯、答你如今得生、個的船中嘅人點樣呢、豈唔係好過佢咩」⁷⁸⁾（日本語訳：これで問答の形で語る。質問：今一人でこの危険なところにいるが、ここから出て無事に帰ることは、おそらく無理だろう。回答：あなたは今生きているが、同じ船に乗っている人たちはどうだった？彼らよりましではないか。）

「問答」というのは、中国の教訓的な文章で使われてきた形式である。この部分も、中国人に親しい形に書き換えて、わかりやすくした。他の宣教するための本、例えば、『領洗問答』や、『聖事問答』などにもこの「問答」の形式が使われている。さらに、「聖經話、亞伯拉罕對富人話、你我之中、有深遠隔住、我想到你處唔得、你要到我處亦唔得、見路加十六章二十六節」⁷⁹⁾（日本語訳：聖書によると、アブラハムは金持ちにこう言った。私たちの間は、深淵で隔てられていて、私があなたのところに行きたくても無理で、あなたは私のところに来たくても無理だ。ルカによる福音書第十六章第二十六節）という直接に聖書から引用するところがある。

英為霖はメソジスト教会の命令で広東地域に来て、妻と一緒に女子寄宿学校の設立と教育に携わった。『辜蘇歷程』は読み物として、宣教の機能も持っていると考えられる。

おわりに

本稿では、東アジアにおける特別な訳本、つまり中国語方言の粵語で書かれた翻訳版本『辜蘇歷程』を取り上げて考察した。『辜蘇歷程』の訳者であるイギリス宣教師英為霖は、1882年中国に宣教しにきて、1905年までに佛山教会病院で働いていた新宣教師兼イギリスメソジスト教会牧師 William Bridie である。彼は広東方言を習得し、中国民衆が理解できる言語で宣教することが一番相応しい布教活動であると考えた。それに、『辜蘇歷程』をめぐって、訳本の特徴を明らかにした。訳者は西洋人であっても、彼は訳本が読者の親しんでいる文化に適応させるように、訳本を改変した。父親の権威が尊重されていることと、母親がいつも子供を可愛がっていることは、中国でよくみられる家族の形である。父親は最高の決定権を持っているから、一度禁じられたことは二度と申し出できないことが普通の親子関係と認識されている。『辜蘇歴

77) WATSON 版, 68頁。

78) 英為霖訳, 28頁左。

79) 英為霖訳, 74頁左。

程』は中国の伝統文化、特に家庭文化を配慮した上で、訳文を仕上げたと考えられる。

しかし、本稿では触れることのできなかつた問題点もある。例えば、「但總唔似得買賣人口嘅利息更多、舊日有人買倒、到別國地廣人少之處、種蔗園、種煙葉、開礦淘金嘅事、黑人個個噲做、因為個處人多、而且俱係愚蠢、唔多值錢、若能買倒來賣過別人、得好多利息」⁸⁰⁾（日本語訳：しかし人身売買はほか商売より大きい利益を上げることができる。昔からこの貿易に携わる人がいる。他国の人々のあまり来ない所で、甘蔗、煙草を植えさせたり、金鉱を掘らせたりする。黒人は何でもやれる。しかも人数も多いし、愚かだから、黒人そのものは非常に安い。もし黒人を買ってほかの人に売ると、たくさんの利益を得ることができる。）

現在では歴史的に審判の下されている植民地支配の意識が描かれているところである。今後は、一つの書物だけではなく、同時代の他の訳本も一緒に視野に入れて、さらに深く研究したい。

80) 英為霖訳, 11頁左。